

ひと

ハーバード大日米関係プログラム所長になった

Christina

Davis

クリスティーナ・デイビス さん (48)

ライシャワー駐日大使をはじめ米国の日本研究を担う人材が輩出したハーバード大で、日米関係プログラムの所長に1月、就任した。「ジャパン・アズ・ナンバードワン」のエズラ・ボーゲル氏、日本政治が専門のスーザン・ファア氏に次ぐ3代目の所長だ。

日本経済が強かった1989年、ハーバード大1年生のときに

日本に興味を持った。目覚ましい成長を可能にしたものは何か。政治や歴史へと関心が広がった。

日本農業の自由化をテーマに博士号を取得。貿易政策を中心に国際関係が専門だ。バブル崩壊後は「失われた20年」が批判される日本経済だが、「低成長にもかかわらず、経済も政治も安定を保ち、社会的結束も維持している」と日本の基礎的条件を評価する。

日本から学ぶべきことはまだまだ多いと、米社会の日本理解を広げるのが新所長の抱負だ。

北海道の斜里町をよく訪れる。知床半島の温泉につかりながら流水を見るのが好きだ。国際交流プログラムで訪れ、受け入れ先の家族とも親交を重ねてきた。「自分が育った米西海岸ワシントン州の小さな農村を思い出すのです」

夫は、東大への留学時代に知り合った計量政治学の今井耕介氏。現在はハーバード大政治学部と同僚教授でもある。2人の子供を育てながら学問を続けた。「夫がとても協力的でした」という。

文・三浦俊章 写真・山本和生